



EtherChannel インターフェイスと冗長インターフェイス

この章では、EtherChannel インターフェイスと冗長インターフェイスを設定する方法について説明します。



(注) マルチコンテキストモードでは、この項のすべてのタスクをシステム実行スペースで実行してください。まだシステム実行スペースに入っていない場合は、**[Configuration]** > **[Device List]** ペイン内で、アクティブなデバイスの IP アドレスの下にある **[System]** をダブルクリックします。

特殊な必須要件を保有する ASA クラスター インターフェイスについては、[の Cisco ASA クラスター](#) を参照してください。



(注) プラットフォームモードの Firepower 2100 および Firepower 4100/9300 シャーシ、EtherChannel インターフェイスは FXOS オペレーティングシステムで設定されます。冗長インターフェイスはサポートされません。詳細については、お使いのシャーシの設定または導入ガイドを参照してください。

- [EtherChannel インターフェイスと冗長インターフェイスについて \(2 ページ\)](#)
- [EtherChannel インターフェイスと冗長インターフェイスのガイドライン \(6 ページ\)](#)
- [EtherChannel インターフェイスと冗長インターフェイスのデフォルト設定 \(9 ページ\)](#)
- [冗長インターフェイスの設定 \(9 ページ\)](#)
- [EtherChannel の設定 \(12 ページ\)](#)
- [EtherChannel の例 \(17 ページ\)](#)
- [EtherChannel インターフェイスと冗長インターフェイスの履歴 \(17 ページ\)](#)

EtherChannel インターフェイスと冗長インターフェイスについて

ここでは、EtherChannel インターフェイスと冗長インターフェイスについて説明します。

冗長インターフェイスについて（ASA プラットフォームのみ）

論理冗長インターフェイスは、物理インターフェイスのペア（アクティブインターフェイスとスタンバイ インターフェイス）で構成されます。アクティブ インターフェイスで障害が発生すると、スタンバイ インターフェイスがアクティブになって、トラフィックを通過させ始めます。冗長インターフェイスを設定してASAの信頼性を高めることができます。この機能は、デバイスレベルのフェールオーバーとは別個のものです。必要な場合はデバイスレベルのフェールオーバーとともに冗長インターフェイスも設定できます。

最大 8 個の冗長インターフェイス ペアを設定できます。

冗長インターフェイスの MAC アドレス

冗長インターフェイスでは、追加した最初の物理インターフェイスの MAC アドレスを使用します。コンフィギュレーションでメンバー インターフェイスの順序を変更すると、MAC アドレスは、リストの最初になったインターフェイスの MAC アドレスと一致するように変更されます。または、冗長インターフェイスに手動で MAC アドレスを割り当てることができます。これはメンバー インターフェイスの MAC アドレスに関係なく使用されます。アクティブ インターフェイスがスタンバイインターフェイスにフェールオーバーすると、トラフィックが中断しないように同じ MAC アドレスが維持されます。

関連トピック

[手動 MAC アドレス、MTU、および TCP MSS の設定](#)

[マルチ コンテキストの設定](#)

EtherChannel について

802.3ad EtherChannel は、単一のネットワークの帯域幅を増やすことができるように、個別のイーサネット リンク（チャンネル グループ）のバンドルで構成される論理インターフェイスです（ポートチャンネル インターフェイスと呼びます）。ポートチャンネル インターフェイスは、インターフェイス関連の機能を設定するときに、物理インターフェイスと同じように使用します。

モデルでサポートされているインターフェイスの数に応じて、最大 48 個の Etherchannel を設定できます。

チャンネルグループインターフェイス

各チャンネルグループには、最大 8 個のアクティブインターフェイスを持たせることができます。ただし、ASA モデルと ISA 3000 は、16 個のアクティブインターフェイスをサポートしています。8 個のアクティブインターフェイスだけをサポートするスイッチの場合、1 つのチャンネルグループに最大 16 個のインターフェイスを割り当てることができます。インターフェイスは 8 個のみアクティブにできるため、残りのインターフェイスは、インターフェイスの障害が発生した場合のスタンバイリンクとして動作できます。

チャンネルグループのすべてのインターフェイスは、同じタイプと速度である必要があります。チャンネルグループに追加された最初のインターフェイスによって、正しいタイプと速度が決まります。

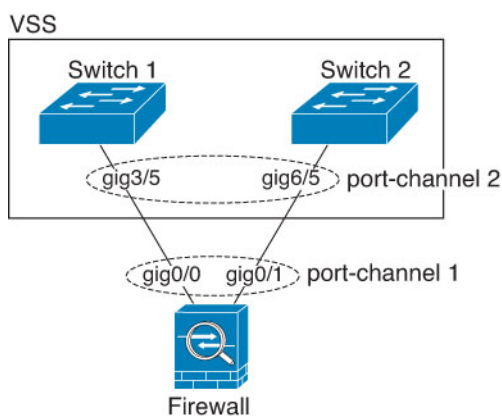
EtherChannel によって、チャンネル内の使用可能なすべてのアクティブインターフェイスのトラフィックが集約されます。インターフェイスは、送信元または宛先 MAC アドレス、IP アドレス、TCP および UDP ポート番号、および VLAN 番号に基づいて、独自のハッシュアルゴリズムを使用して選択されます。

別のデバイスの EtherChannel への接続

ASA EtherChannel の接続先のデバイスも 802.3ad EtherChannel をサポートしている必要があります。たとえば、Catalyst 6500 スイッチまたは Cisco Nexus 7000 に接続できます。

スイッチが仮想スイッチングシステム (VSS) または仮想ポートチャンネル (vPC) の一部である場合、同じ EtherChannel 内の ASA インターフェイスを VSS/vPC 内の個別のスイッチに接続できます。スイッチインターフェイスは同じ EtherChannel ポートチャンネルインターフェイスのメンバです。複数の個別のスイッチが単一のスイッチのように動作するからです。

図 1: VSS/vPC への接続

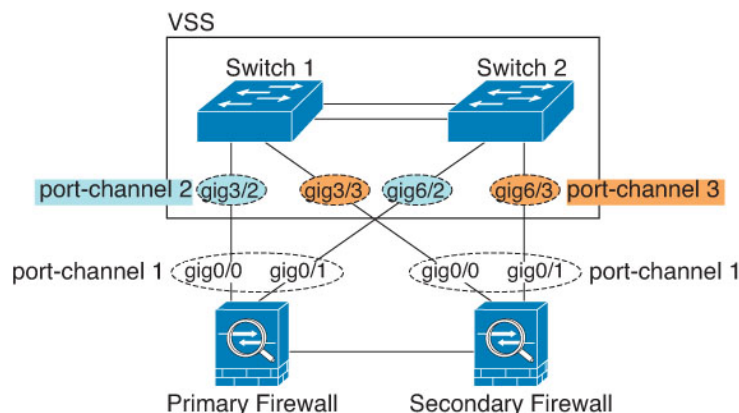




- (注) ASA デバイスがトランスペアレント ファイアウォールモードになっており、2 組の VSS/vPC スイッチ間に ASA デバイスを配置する場合は、EtherChannel 内で ASA デバイ스에 接続されたすべてのスイッチポートで単方向リンク検出 (UDLD) を無効にしてください。スイッチポートで UDLD を有効にすると、他の VSS/vPC ペアの両方のスイッチから送信された UDLD パケットを受信する場合があります。受信側スイッチの受信インターフェイスは「UDLDNeighbor mismatch」という理由でダウン状態になります。

ASA デバイスをアクティブ/スタンバイフェールオーバーで使用する場合、ASA デバイスごとに1つ、VSS/vPC内のスイッチで個別のEtherChannelを作成する必要があります。各ASAデバイスで、1つのEtherChannelが両方のスイッチに接続します。すべてのスイッチインターフェイスを両方のASAデバイスに接続する単一のEtherChannelにグループ化できる場合でも（この場合、個別のASAシステムIDのため、EtherChannelは確立されません）、単一のEtherChannelは望ましくありません。これは、トラフィックをスタンバイASAデバイスに送信しないようにするためです。

図 2: アクティブ/スタンバイフェールオーバーと VSS/vPC



Link Aggregation Control Protocol (LACP)

リンク集約制御プロトコル (LACP) では、2つのネットワークデバイス間でリンク集約制御プロトコルデータユニット (LACPDU) を交換することによって、インターフェイスが集約されます。

EtherChannel 内の各物理インターフェイスを次のように設定できます。

- [アクティブ (Active)] : LACP アップデートを送信および受信します。アクティブ EtherChannel は、アクティブまたはパッシブ EtherChannel と接続を確立できます。LACP トラフィックを最小にする必要がある場合以外は、アクティブモードを使用する必要があります。
- パッシブ : LACP アップデートを受信します。パッシブ EtherChannel は、アクティブ EtherChannel のみと接続を確立できます。ハードウェアモデルではサポートされていません。

- オン：EtherChannelは常にオンであり、LACPは使用されません。「オン」のEtherChannelは、別の「オン」のEtherChannelのみと接続を確立できます。

LACPでは、ユーザが介入しなくても、EtherChannelへのリンクの自動追加および削除が調整されます。また、コンフィギュレーションの誤りが処理され、メンバインターフェイスの両端が正しいチャンネルグループに接続されていることがチェックされます。「オン」モードではインターフェイスがダウンしたときにチャンネルグループ内のスタンバイインターフェイスを使用できず、接続とコンフィギュレーションはチェックされません。

ロードバランシング

ASA デバイスは、パケットの送信元および宛先 IP アドレスをハッシュすることによって、パケットを EtherChannel 内のインターフェイスに分散します（この基準は設定可能です）。生成されたハッシュ値をアクティブなリンクの数で割り、そのモジュロ演算で求められた余りの値によってフローの割り当て先のインターフェイスが決まります。 $hash_value \bmod active_links$ の結果が 0 となるすべてのパケットは、EtherChannel 内の最初のインターフェイスに送信され、以降は結果が 1 となるものは 2 番目のインターフェイスに、結果が 2 となるものは 3 番目のインターフェイスに、というように送信されます。たとえば、15 個のアクティブリンクがある場合、モジュロ演算では 0 ~ 14 の値が得られます。6 個のアクティブリンクの場合、値は 0 ~ 5 となり、以降も同様になります。

クラスタリングのスパンド EtherChannel では、ロードバランシングは ASA ごとに行われます。たとえば、8 台の ASA にわたるスパンド EtherChannel 内に 32 個のアクティブインターフェイスがあり、EtherChannel 内の 1 台の ASA あたり 4 個のインターフェイスがある場合、ロードバランシングは 1 台の ASA の 4 個のインターフェイス間でのみ行われます。

アクティブインターフェイスがダウンし、スタンバイインターフェイスに置き換えられない場合、トラフィックは残りのリンク間で再バランスされます。失敗はレイヤ 2 のスパニングツリーとレイヤ 3 のルーティングテーブルの両方からマスクされるため、他のネットワークデバイスへのスイッチオーバーはトランスペアレントです。

関連トピック

[EtherChannel のカスタマイズ](#)（14 ページ）

EtherChannel MAC アドレス

1 つのチャンネルグループに含まれるすべてのインターフェイスは、同じ MAC アドレスを共有します。この機能によって、EtherChannel はネットワークアプリケーションとユーザに対してトランスペアレントになります。ネットワークアプリケーションやユーザから見えるのは 1 つの論理接続のみであり、個々のリンクのことは認識しないからです。

Firepower ハードウェア

ポートチャンネルインターフェイスは、内部インターフェイスの内部データ 0/1 の MAC アドレスを使用します。または、ポートチャンネルインターフェイスの MAC アドレスを手動で設定することもできます。マルチコンテキストモードでは、EtherChannel ポートインターフェイスを含め、一意の MAC アドレスを共有インターフェイスに自動的に割り当てることができます。シャース上のすべての EtherChannel インターフェイスは同じ MAC アドレスを使用するため、

たとえば、SNMP ポーリングを使用する場合、複数のインターフェイスが同じ MAC アドレスを持つことに注意してください。



- (注) メンバーインターフェイスは、再起動後に内部データ 0/1 MAC アドレスのみを使用します。再起動する前に、メンバーインターフェイスは独自の MAC アドレスを使用する。再起動後に新しいメンバーインターフェイスを追加する場合、MAC アドレスを更新するためにもう一度再起動する必要があります。

ASA ハードウェア

ポートチャンネルインターフェイスは、最も小さいチャンネルグループインターフェイスの MAC アドレスをポートチャンネル MAC アドレスとして使用します。または、ポートチャンネルインターフェイスの MAC アドレスを手動で設定することもできます。マルチコンテキストモードでは、EtherChannel ポートインターフェイスを含め、一意の MAC アドレスを共有インターフェイスに自動的に割り当てることができます。グループチャンネルインターフェイスのメンバーシップを変更する場合は、固有の MAC アドレスを手動で設定するか、または共有インターフェイスのマルチコンテキストモードでは自動的に設定することを推奨します。ポートチャンネル MAC アドレスを提供していたインターフェイスを削除すると、そのポートチャンネル MAC アドレスは次に番号が小さいインターフェイスに変わるため、トラフィックが分断されます。

EtherChannel インターフェイスと冗長インターフェイスのガイドライン

ブリッジグループ

ルーテッドモードでは、ASA 定義の EtherChannel はブリッジグループメンバーとしてサポートされません。Firepower 4100/9300 上の Etherchannel は、ブリッジグループメンバーにすることができます。

フェイルオーバー

- EtherChannel インターフェイスまたは冗長インターフェイスをフェイルオーバーリンクとして使用する場合、フェイルオーバーペアの両方のユニットでその事前設定を行う必要があります。プライマリユニットで設定し、セカンダリユニットに複製されることは想定できません。これは、複製にはフェイルオーバーリンク自体が必要であるためです。
- EtherChannel インターフェイスまたは冗長インターフェイスをステートリンクに対して使用する場合、特別なコンフィギュレーションは必要ありません。コンフィギュレーションは通常どおりプライマリユニットから複製されます。Firepower 4100/9300 シャーシでは、EtherChannel を含むすべてのインターフェイスを、両方のユニットで事前に設定する必要があります。

- フェイルオーバーの EtherChannel または冗長インターフェイスをモニターできます。アクティブなメンバーインターフェイスがスタンバイインターフェイスにフェールオーバーした場合、デバイスレベルのフェイルオーバーをモニタしているときには、EtherChannel インターフェイスまたは冗長インターフェイスで障害が発生しているようには見えません。すべての物理インターフェイスで障害が発生した場合にのみ、EtherChannel インターフェイスまたは冗長インターフェイスで障害が発生しているように見えます (EtherChannel インターフェイスでは、障害の発生が許容されるメンバーインターフェイスの数を設定できません)。
- EtherChannel インターフェイスをフェイルオーバーまたはステートリンクに対して使用する場合、パケットが順不同にならないように、EtherChannel 内の 1 つのインターフェイスのみが使用されます。そのインターフェイスで障害が発生した場合は、EtherChannel 内の次のリンクが使用されます。フェイルオーバーリンクとして使用中の EtherChannel の設定は変更できません。設定を変更するには、フェイルオーバーを一時的に無効にする必要があります。これにより、その期間中はフェイルオーバーが発生することはありません。

モデルサポート

- プラットフォームモードの Firepower 2100、Firepower 4100/9300、または ASA の場合、ASA に EtherChannel を追加することはできません。Firepower 4100/9300 は EtherChannel をサポートしていますが、シャーシの FXOS で EtherChannel のすべてのハードウェア設定を実行する必要があります。
- 冗長インターフェイスは、ASA 5500-X プラットフォームでのみサポートされます。
- EtherChannel で Firepower 1010 のスイッチポートまたは VLAN インターフェイスを使用することはできません。

クラスタリング

- スパンド EtherChannel または個別クラスタインターフェイスを設定するには、クラスタリングの章を参照してください。

EtherChannel の一般的なガイドライン

- モデルで利用可能なインターフェイスの数に応じて、最大 48 個の Etherchannel を設定できます。
- 各チャネルグループには、最大 8 個のアクティブインターフェイスを持たせることができます。ただし、ASA モデルと ISA 3000 は、16 個のアクティブインターフェイスをサポートしています。8 個のアクティブインターフェイスだけをサポートするスイッチの場合、1 つのチャネルグループに最大 16 個のインターフェイスを割り当てることができます。インターフェイスは 8 個のみアクティブにできるため、残りのインターフェイスは、インターフェイスの障害が発生した場合のスタンバイリンクとして動作できます。
- 最初のメンバーインターフェイスを追加すると、すべてのメンバーインターフェイスに必要なハードウェアプロパティが設定されます。

- メンバーインターフェイスのメディアタイプはRJ-45 または SFP のいずれかです。異なるタイプ（銅と光ファイバ）の SFP を混在させることができます。RJ-45 インターフェイスと SFP インターフェイスを混在させることはできません。
- すべてのインターフェイスが同じ速度とデュプレックスに設定されている必要があります。
- 最初のインターフェイスで速度キャパシティを設定しますが、これは後で変更できません。追加のインターフェイスはすべて同じ速度のキャパシティにする必要があります。たとえば、最初のインターフェイスの速度キャパシティが 10MB/100MB/1GB の場合は、他の 10MB/100MB/1GB インターフェイスを追加する必要があります。EtherChannel（およびそのメンバーインターフェイス）をこれらの速度のいずれかに設定できます。容量の小さいインターフェイスを削除しても、後で 1/10GB インターフェイスを EtherChannel に追加することはできません。容量の大きいインターフェイスで速度を低く設定することによってインターフェイスの容量（1GB インターフェイスと 10GB インターフェイスなど）を混在させることはできません。
- ASA の EtherChannel の接続先デバイスも 802.3ad EtherChannel をサポートしている必要があります。
- ASA デバイスは、VLAN タグ付きの LACPDU をサポートしていません。Cisco IOS **vlan dot1Q tag native** コマンドを使用して隣接スイッチのネイティブ VLAN タギングを有効にすると、ASA デバイスはタグ付きの LACPDU をドロップします。隣接スイッチのネイティブ VLAN タギングは、必ず無効化してください。マルチ コンテキスト モードでは、これらのメッセージはパケットキャプチャに含まれていないため、問題を効率的に診断できません。
- LACP レートはモデルによって異なります。レート（通常または高速）を設定すると、デバイスは接続中のスイッチにそのレートを要求します。デバイスの方も接続中のスイッチによって要求されたレートで送信します。両側で同じレートを設定することを推奨します。
 - Firepower 4100/9300 : LACP レートは、FXOS ではデフォルトで高速に設定されていますが、通常（低速とも呼ばれる）に設定することもできます。
 - 他のすべてのモデル : LACP レートが通常（低速とも呼ばれる）に設定されており、変更できません。つまり、デバイスは接続中のスイッチに常に低速レートを要求します。スイッチのレートを低速に設定して、両側が同じレートで LACP メッセージを送信するように設定することを推奨します。
- 15.1(1)S2 以前の Cisco IOS ソフトウェアバージョンを実行する ASA では、スイッチスタックへの EtherChannel の接続がサポートされていませんでした。デフォルトのスイッチ設定では、ASA EtherChannel がクロススタックに接続されている場合、プライマリスイッチの電源がオフになると、残りのスイッチに接続されている EtherChannel は起動しません。互換性を高めるため、**stack-mac persistent timer** コマンドを設定して、十分なりロード時間を確保できる大きな値、たとえば 8 分、0（無制限）などを設定します。または、15.1(1)S2 など、より安定したスイッチ ソフトウェア バージョンにアップグレードできます。

- すべての ASA コンフィギュレーションは、メンバー物理インターフェイスではなく論理 EtherChannel インターフェイスを参照します。
- EtherChannel の一部として冗長インターフェイスを使用することはできません。また、冗長インターフェイスの一部として EtherChannel を使用することはできません。冗長インターフェイスと EtherChannel インターフェイスでは同じ物理インターフェイスを使用できません。ただし、同じ物理インターフェイスを使用しない場合は、ASA デバイス上で両方のタイプを設定できます。

EtherChannel インターフェイスと冗長インターフェイスのデフォルト設定

この項では、工場出荷時のデフォルトコンフィギュレーションが設定されていない場合のインターフェイスのデフォルト設定を示します。

インターフェイスのデフォルトの状態

インターフェイスのデフォルトの状態は、そのタイプおよびコンテキストモードによって異なります。

マルチ コンテキスト モードでは、システム実行スペース内でのインターフェイスの状態にかかわらず、すべての割り当て済みのインターフェイスがデフォルトでイネーブルになっています。ただし、トラフィックがインターフェイスを通過するためには、そのインターフェイスもシステム実行スペース内でイネーブルになっている必要があります。インターフェイスをシステム実行スペースでシャットダウンすると、そのインターフェイスは、それを共有しているすべてのコンテキストでダウンします。

シングルモードまたはシステム実行スペースでは、インターフェイスのデフォルトの状態は次のとおりです。

- 物理インターフェイス：ディセーブル。
- 冗長インターフェイス：イネーブル。ただし、トラフィックが冗長インターフェイスを通過するためには、メンバー物理インターフェイスもイネーブルになっている必要があります。
- EtherChannel ポートチャネル インターフェイス：イネーブル。ただし、トラフィックが EtherChannel を通過するためには、チャネルグループ物理インターフェイスもイネーブルになっている必要があります。

冗長インターフェイスの設定

論理冗長インターフェイスは、物理インターフェイスのペア（アクティブインターフェイスとスタンバイ インターフェイス）で構成されます。アクティブ インターフェイスで障害が発生

すると、スタンバイインターフェイスがアクティブになって、トラフィックを通過させ始めます。冗長インターフェイスを設定して ASA の信頼性を高めることができます。この機能は、デバイスレベルのフェールオーバーとは別個のものですが、必要な場合はフェールオーバーとともに冗長インターフェイスも設定できます。

この項では、冗長インターフェイスを設定する方法について説明します。

冗長インターフェイスの設定

この項では、冗長インターフェイスを作成する方法について説明します。デフォルトでは、冗長インターフェイスはイネーブルになっています。

始める前に

- 最大 8 個の冗長インターフェイス ペアを設定できます。
- 冗長インターフェイス遅延値は設定可能ですが、デフォルトでは、ASA はそのメンバーインターフェイスの物理タイプに基づくデフォルトの遅延値を継承します。
- 両方のメンバーインターフェイスが同じ物理タイプである必要があります。たとえば、両方ともギガビット イーサネットにする必要があります。
- 名前が設定されている場合は、物理インターフェイスを冗長インターフェイスに追加できません。最初に、[Configuration] > [Device Setup] > [Interface Settings] > [Interfaces] ペインで、名前を削除する必要があります。
- マルチ コンテキスト モードでは、システム実行スペースで次の手順を実行します。まだシステムコンフィギュレーションモードを開始していない場合は、[Configuration] > [Device List] ペインで、アクティブなデバイス IP アドレスの下にある [System] をダブルクリックします。



注意 コンフィギュレーション内で物理インターフェイスをすでに使用している場合、名前を削除すると、このインターフェイスを参照しているすべてのコンフィギュレーションが消去されます。

手順

ステップ 1 コンテキスト モードによって次のように異なります。

- シングルモードの場合は、[設定 (Configuration)] > [デバイスのセットアップ (Device Setup)] > [インターフェイスの設定 (Interface Settings)] > [インターフェイス (Interfaces)] ペインの順に選択します。

- マルチモードの場合は、システム実行スペースで、[設定 (Configuration)] > [コンテキスト管理 (Context Management)] > [インターフェイス (Interfaces)] ペインの順に選択します。

ステップ 2 [追加 (Add)] > [冗長インターフェイス (Redundant Interface)] の順に選択します。

[Add Redundant Interface] ダイアログボックスが表示されます。

(注)

シングルモードでは、この手順では [Edit Redundant Interface] ダイアログボックスでのパラメータのサブセットのみを対象としています。マルチ コンテキスト モードでは、インターフェイスの設定を完了する前に、コンテキストにインターフェイスを割り当てる必要があります。マルチ コンテキストの設定を参照してください。

ステップ 3 [Redundant ID] フィールドで、1 ~ 8 の整数を入力します。

ステップ 4 [Primary Interface] ドロップダウンリストから、プライマリにする物理インターフェイスを選択します。

サブインターフェイスを持たず、まだコンテキストに割り当てられていないインターフェイスを必ず選択してください。冗長インターフェイスは、Management slot/port インターフェイスをメンバとしてサポートしません。

ステップ 5 [Secondary Interface] ドロップダウンリストから、セカンダリにする物理インターフェイスを選択します。

ステップ 6 インターフェイスがまだイネーブルでない場合は、[Enable Interface] チェックボックスをオンにします。

インターフェイスはデフォルトでイネーブルになっています。

ステップ 7 説明を追加するには、[Description] フィールドにテキストを入力します。

説明は 240 文字以内で入力できます。改行を入れずに 1 行で入力します。マルチ コンテキスト モードの場合、システムの説明とコンテキストの説明に関係はありません。フェールオーバーまたはステートリンクの場合、説明は「LAN Failover Interface」、「STATE Failover Interface」、または「LAN/STATE Failover Interface」などに固定されます。この説明は編集できません。このインターフェイスをフェールオーバーまたはステートリンクにした場合、ここで入力したすべての説明が、この固定の説明で上書きされます。

ステップ 8 [OK] をクリックします。

[Interfaces] ペインに戻ります。メンバーインターフェイスで、基本パラメータのみが設定できることを示すロックが、インターフェイス ID の左側に表示されます。冗長インターフェイスがテーブルに追加されます。

🔒 GigabitEthernet0/2	Enabled	No	Redundant8	Hardware	native
GigabitEthernet0/3	Enabled	No		Hardware	native
GigabitEthernet0/3.10	Enabled	No		Logical	vlan100
GigabitEthernet0/3.11	Enabled	No		Logical	vlan11
Management0/0	Enabled	No		Hardware	native
Redundant8	Enabled	Yes		Logical	native

2547710

アクティブインターフェイスの変更

デフォルトでは、コンフィギュレーションで最初にリストされているインターフェイスが（使用可能であれば）、アクティブインターフェイスになります。

手順

ステップ1 どのインターフェイスがアクティブかを表示するには、**[Tools] > [Command Line Interface]** ツールで次のコマンドを入力します。

```
show interface redundant number detail | grep Member
```

例：

```
show interface redundant1 detail | grep Member
Members GigabitEthernet0/3(Active), GigabitEthernet0/2
```

ステップ2 アクティブインターフェイスを変更します。

```
redundant-interface redundant number active-member physical_interface
```

redundantnumber 引数には、冗長インターフェイス ID (**redundant1** など) を指定します。

physical_interface には、アクティブにするメンバインターフェイスの ID を指定します。

EtherChannel の設定

ここでは、EtherChannel ポートチャネルインターフェイスの作成、インターフェイスの EtherChannel への割り当て、EtherChannel のカスタマイズ方法について説明します。

EtherChannel へのインターフェイスの追加

ここでは、EtherChannel ポートチャネルインターフェイスを作成し、インターフェイスを EtherChannel に割り当てる方法について説明します。デフォルトでは、ポートチャネルインターフェイスはイネーブルになっています。

始める前に

- 最初のメンバーインターフェイスを追加すると、すべてのメンバーインターフェイスに必要なハードウェアプロパティが設定されます。メンバーインターフェイスの要件の詳細については、[EtherChannel インターフェイスと冗長インターフェイスのガイドライン \(6 ページ\)](#) を参照してください。
- クラスタリング用にスパンド EtherChannel を設定するには、この手順の代わりにクラスタリングの章を参照してください。
- 名前が設定されている場合は、物理インターフェイスをチャンネルグループに追加できません。最初に、[Configuration] > [Device Setup] > [Interface Settings] > [Interfaces] ペインで、名前を削除する必要があります。
- マルチ コンテキスト モードでは、システム実行スペースで次の手順を実行します。まだシステム コンフィギュレーション モードを開始していない場合は、**[Configuration] > [Device List]** ペインで、アクティブなデバイス IP アドレスの下にある [System] をダブルクリックします。



注意

コンフィギュレーション内で物理インターフェイスをすでに使用している場合、名前を削除すると、このインターフェイスを参照しているすべてのコンフィギュレーションが消去されます。

手順

ステップ 1 コンテキスト モードによって次のように異なります。

- シングルモードの場合、**[Configuration] > [Device Setup] > [Interface Settings] > [Interfaces]** ペインを選択します。
- マルチモードの場合、システム実行スペースで、**[Configuration] > [Context Management] > [Interfaces]** ペインを選択します。

ステップ 2 **[Add] > [EtherChannel Interface]** の順に選択します。

[Add EtherChannel Interface] ダイアログボックスが表示されます。

(注)

シングルモードでは、この手順では [Edit EtherChannel Interface] ダイアログボックスでのパラメータのサブセットのみを対象としています。マルチコンテキストモードでは、インターフェイスの設定を完了する前に、コンテキストにインターフェイスを割り当てる必要があります。[マルチ コンテキストの設定](#)を参照してください。

ステップ 3 **Port Channel ID** フィールドに、1 ~ 48 の数値を入力します (Firepower 1010) 。

ステップ 4 [Available Physical Interface] 領域で、インターフェイスをクリックし、[Add] をクリックしてそれを [Members in Group] 領域に移動します。

トランスペアレントモードで、複数の管理インターフェイスがあるチャンネルグループを作成する場合は、この EtherChannel を管理専用インターフェイスとして使用できます。

(注)

EtherChannel モードをオンに設定する場合、最初はインターフェイスを 1 個のみ含める必要があります。この手順を完了後、メンバーインターフェイスを編集し、このモードをオンに設定します。変更を適用し、EtherChannel を編集してメンバーインターフェイスをさらに追加します。

ステップ 5 チャンネルグループに追加するインターフェイスごとに繰り返します。

すべてのインターフェイスが同じタイプと速度であるようにします。最初に追加するインターフェイスによって、EtherChannel のタイプと速度が決まります。一致しないインターフェイスを追加すると、そのインターフェイスは停止状態になります。ASDM では、一致しないインターフェイスの追加は防止されません。

ステップ 6 [OK] をクリックします。

[Interfaces] ペインに戻ります。メンバーインターフェイスで、基本パラメータのみが設定できることを示すロックが、インターフェイス ID の左側に表示されます。EtherChannel インターフェイスがテーブルに追加されます。

GigabitEthernet0/3	Disabled			Port-channel1	Hardw
Management0/0	Disabled				Hardw
Port-channel1	Enabled				EtherC

ステップ 7 [Apply] をクリックします。すべてのメンバーインターフェイスは自動的にイネーブルになります。

関連トピック

[Link Aggregation Control Protocol \(LACP\)](#) (4 ページ)

[EtherChannel のカスタマイズ](#) (14 ページ)

EtherChannel のカスタマイズ

この項では、EtherChannel のインターフェイスの最大数、EtherChannel をアクティブにするための動作インターフェイスの最小数、ロードバランシングアルゴリズム、およびその他のオプションパラメータを設定する方法について説明します。

手順

ステップ 1 コンテキストモードによって次のように異なります。

- シングルモードの場合、[Configuration] > [Device Setup] > [Interface Settings] > [Interfaces] ペインを選択します。

- マルチモードの場合、システム実行スペースで、**[Configuration]>[Context Management]>[Interfaces]** ペインを選択します。

ステップ 2 カスタマイズするポートチャンネルインターフェイスをクリックし、**[Edit]** をクリックします。

[Edit Interface] ダイアログボックスが表示されます。

ステップ 3 すべてのメンバインターフェイスについて、メディアタイプ、二重通信、速度、およびフロー制御のポーズフレームを上書きするには、**[Configure Hardware Properties]** をクリックします。これらのパラメータはチャンネルグループのすべてのインターフェイスで一致している必要があるため、この方法はこれらのパラメータを設定するショートカットになります。

ステップ 4 (オプション。ASA 5500-X および ISA 3000 のみ) EtherChannel をカスタマイズするには、**[詳細設定 (Advanced)]** タブをクリックします。

- a) **[EtherChannel]** 領域で、**[Minimum]** ドロップダウンリストから、EtherChannel をアクティブにするために必要なアクティブインターフェイスの最小数を 1～16 の範囲で選択します。デフォルトは 1 です。
- b) **[Maximum]** ドロップダウンリストから、EtherChannel で許可されるアクティブインターフェイスの最大数を 1～16 の範囲で選択します。デフォルトは 16 です。スイッチが 16 個のアクティブインターフェイスをサポートしていない場合、このコマンドは必ず 8 以下に設定する必要があります。
- c) **[Load Balance]** ドロップダウンリストから、パケットをグループチャンネルインターフェイス間でロードバランスするために使用する基準を選択します。デフォルトでは、ASA はパケットの送信元および宛先 IP アドレスに従って、インターフェイスでのパケットのロードをバランスします。パケットが分類される基準になるプロパティを変更する場合は、別の基準のセットを選択します。たとえば、トラフィックが同じ送信元および宛先 IP アドレスに大きく偏っている場合、EtherChannel 内のインターフェイスに対するトラフィックの割り当てがアンバランスになります。別のアルゴリズムに変更すると、トラフィックはより均等に分散される場合があります。ロードバランシングの詳細については、[ロードバランシング \(5 ページ\)](#) を参照してください。
- d) **[Secure Group Tagging]** 設定については、[ファイアウォール コンフィギュレーション ガイド](#) を参照してください。
- e) **[ASA Cluster]** 設定については、[\(推奨、マルチコンテキストモードでは必須\) 制御ノードでのインターフェイスの設定](#) を参照してください。

ステップ 5 **[OK]** をクリックします。

[Interfaces] ペインに戻ります。

ステップ 6 チャンネルグループ内の物理インターフェイスのモードおよびプライオリティを設定するには、次の手順を実行します。

- a) **[Interfaces]** テーブルで物理インターフェイスを選択し、**[Edit]** をクリックします。

[Edit Interface] ダイアログボックスが表示されます。

- b) **[Advanced]** タブをクリックします。
- c) **[EtherChannel]** 領域で、**[Mode]** ドロップダウンリストから、**[Active]**、**[Passive]**、または **[On]** を選択します。**[Active]** モード (デフォルト) を使用することを推奨します。

- d) (オプション。ASA 5500-X および ISA 3000 のみ) [LACPポートの優先順位 (LACP Port Priority)] フィールドで、ポートの優先順位を 1 ～ 65535 の範囲で設定します。デフォルトは 32768 です。数字が大きいほど、プライオリティは低くなります。使用可能な数よりも多くのインターフェイスを割り当てた場合、ASA ではこの設定を使用して、アクティブインターフェイスとスタンバイ インターフェイスを決定します。ポートプライオリティ設定がすべてのインターフェイスで同じ場合、プライオリティはインターフェイス ID (スロット/ポート) で決まります。最も小さいインターフェイス ID が、最も高いプライオリティになります。たとえば、GigabitEthernet 0/0 のプライオリティは GigabitEthernet 0/1 よりも高くなります。

あるインターフェイスについて、インターフェイス ID は大きいですが、そのインターフェイスがアクティブになるように優先順位を付ける場合は、より小さい値を持つようにこのコマンドを設定します。たとえば、GigabitEthernet 1/3 を GigabitEthernet 0/7 よりも前にアクティブにするには、0/7 インターフェイスでのデフォルトの 32768 に対し、1/3 インターフェイスでプライオリティ値を 12345 にします。

EtherChannel の反対の端にあるデバイスのポートプライオリティが衝突している場合、システムプライオリティを使用して使用するポートプライオリティが決定されます。システムプライオリティを設定するには、[ステップ 9](#) を参照してください。

ステップ 7 [OK] をクリックします。

[Interfaces] ペインに戻ります。

ステップ 8 [Apply] をクリックします。

ステップ 9 (オプション。ASA 5500-X および ISA 3000 のみ) LACP システムプライオリティを設定するには、次の手順を実行します。EtherChannel の反対の端にあるデバイスのポートプライオリティが衝突している場合、システムプライオリティを使用して使用するポートプライオリティが決定されます。詳細については、[ステップ 6d](#) を参照してください。

- a) コンテキストモードによって次のように異なります。

- シングルモードの場合、[構成 (Configuration)] > [デバイス設定 (Device Setup)] > [EtherChannel] ペインを選択します。
- マルチモードの場合、システム実行スペースで、[構成 (Configuration)] > [コンテキスト管理 (Context Management)] > [EtherChannel] ペインを選択します。

- b) [LACP System Priority] フィールドに、プライオリティを 1 ～ 65535 の範囲で入力します。デフォルトは 32768 です。

関連トピック

[ロード バランシング](#) (5 ページ)

[EtherChannel へのインターフェイスの追加](#) (12 ページ)

EtherChannel の例

次の例では、3つのインターフェイスを EtherChannel の一部として設定します。また、システムプライオリティをより高く設定するとともに、GigabitEthernet 0/2 のプライオリティを他のインターフェイスよりも高く設定します。これは、8個を超えるインターフェイスが EtherChannel に割り当てられた場合に備えるためです。

```
lACP system-priority 1234
interface GigabitEthernet0/0
  channel-group 1 mode active
interface GigabitEthernet0/1
  channel-group 1 mode active
interface GigabitEthernet0/2
  lACP port-priority 1234
  channel-group 1 mode passive
interface Port-channel1
  lACP max-bundle 4
  port-channel min-bundle 2
  port-channel load-balance dst-ip
```

EtherChannel インターフェイスと冗長インターフェイスの履歴

表 1: EtherChannel インターフェイスと冗長インターフェイスの履歴

機能名	リリース	機能情報
冗長インターフェイス	8.0(2)	論理冗長インターフェイスは、アクティブとスタンバイの物理インターフェイスからなるペアです。アクティブインターフェイスで障害が発生すると、スタンバイインターフェイスがアクティブになって、トラフィックを通過させ始めます。冗長インターフェイスを設定して ASA の信頼性を高めることができます。この機能は、デバイスレベルのフェールオーバーとは別個のものですが、必要な場合はフェールオーバーとともに冗長インターフェイスも設定できます。最大 8 個の冗長インターフェイスペアを設定できます。

機能名	リリース	機能情報
EtherChannel サポート	8.4(1)	<p>最大 48 個の 802.3ad EtherChannel (1 つあたりのアクティブ インターフェイス 8 個) を設定できます。</p> <p>次の画面が変更または導入されました。</p> <p>[Configuration] > [Device Setup] > [Interface Settings] > [Interfaces]</p> <p>[Configuration] > [Device Setup] > [Interface Settings] > [Interfaces] > [Add/Edit EtherChannel Interface]</p> <p>[Configuration] > [Device Setup] > [Interface Settings] > [Interfaces] > [Add/Edit Interface]</p> <p>[設定 (Configuration)] > [デバイスのセットアップ (Device Setup)] > [EtherChannel]</p> <p>(注)</p> <p>EtherChannel は ASA 5505 ではサポートされません。</p>
EtherChannel あたり 16 個のアクティブ リンクのサポート	9.2(1)	<p>EtherChannel あたり最大で 16 個のアクティブ リンクを設定できるようになりました。これまでは、8 個のアクティブ リンクと 8 個のスタンバイ リンクが設定できました。スイッチは、16 個のアクティブ リンクをサポート可能である必要があります (たとえば、Cisco Nexus 7000 と F2 シリーズ 10 ギガビットイーサネット モジュール)。</p> <p>(注)</p> <p>旧バージョンの ASA からアップグレードする場合、互換性を得るために、アクティブなインターフェイスの最大数を 8 に設定します。</p> <p>次の画面が変更されました。[Configuration] > [Device Setup] > [Interface Settings] > [Interfaces] > [Add/Edit EtherChannel Interface] > [Advanced]。</p>

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

翻訳について

このドキュメントは、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。